

平成18年度

病害虫発生予察特殊報 第2号

平成18年8月10日

茨城県病害虫防除所

Tel : 029-227-2445

トマトすすかび病の発生について

病害虫名：トマトすすかび病

発生作物：トマト

病原菌：*Pseudocercospora fuligena* (Rolan)Deighton

1. 発生経過

(1) 平成17年11月、旧谷和原村（現つくばみらい市）のトマト（葉かび病耐病性品種）において、葉に黄斑を生じ、その上に灰褐色粉状のかびを生じる症状が発生した。一見したところ、トマト葉かび病に酷似していたが、顕微鏡で観察したところ、トマト葉かび病菌とは明らかに異なる分生子が認められた。このため、農業総合センター園芸研究所に病原菌の同定を依頼した結果、本県ではこれまで発生を認めていない *Pseudocercospora fuligena* (Rolan)Deighton によるトマトすすかび病であることが確認された。

2. 病徴

(1) 葉に発病し、初期は葉裏に淡黄色の不明瞭な病斑を生じ、やがて灰褐色粉状のかびを生じる。病勢が進むと、円形あるいは葉脈に囲まれた不正形病斑となり、灰褐色から黒褐色に変わる。葉表は葉裏よりやや遅れて、淡黄褐色の病斑を生じ、かびを生じるが、葉裏に比べて少ない。（図1、2）

(2) 病徴は葉かび病と酷似するが、葉裏の菌そうは、すすかび病の方が少し黒みが強い。

3. 病原菌の特徴と本病の発生生態

(1) 糸状菌の一種で不完全菌類に属する。生育適温は26～28℃、分生子の形成適温は18～22℃、分生子の発芽適温は26℃付近である。（図3）

(2) 被害株の残渣で越冬し、翌年の伝染源となる。多湿条件で発病しやすく、密植、過繁茂、換気不足の施設栽培で発生しやすい。

4. 防除対策

(1) 密植、過繁茂、換気不足の場合に発生しやすいので、通風に心がけ、多湿にならないよう管理する。

(2) 発病葉、被害残渣は圃場外に持ち出し、土中深く埋めるなど適切に処理する。



図1 発生状況



図2 葉の病徴（写真左：葉表，写真右：葉裏（画像処理により左右を反転））



図3 分生子（写真左：すすかび病菌，写真右：葉かび病菌）